

ヨコトリツ!

横浜トリエンナーレサポーター's フリーペーパー Yoko-Treats!

VOL.1
OCT.2013



「ヨコトリツ! (Yoko-Treats!)」は、「横浜トリエンナーレ」を応援し一緒に盛り上げる活動を行うサポーターによる手作りのフリーペーパーです。「トリツ/Treats」には、「思わぬ喜び、とてもいいもの」という意味があります。横浜のいいもの、楽しいものをお伝えしたい! ということで名付けました。ハロウィンの決まり文句「Trick or Treat!」(「トリック オアトリート」=お菓子をくれなきゃタズラするぞ!) から連想して、みんながワクワクするような情報交換の場を目指しています。

ヨコハマトリエンナーレ2014「華氏451の芸術:世界の中心には忘却の海がある」

会期:2014年8月1日(金)~11月3日(月・祝) | 会場:横浜美術館、新港ピア(新港ふ頭展示施設) | アーティスト・ディレクター:森村泰昌
横浜トリエンナーレ公式WEBサイト <http://www.yokohamatriennale.jp/>

【森村泰昌プロフィール】1951年、大阪市生まれ、同市在住。京都市立芸術大学美術学部卒業、専攻科修了。1985年、ゴッホの自画像に扮したセルフポートレート写真を発表。以後、一貫して「自画像的作品」をテーマに、美術史上の名画や往年の映画女優、20世紀の偉人たちなどに扮した写真や映像作品を制作している。2013年、今秋3つの個展が開催予定:「森村泰昌展 ベラスケス嬢:侍女たちは夜に甦る」資生堂ギャラリー(9/28~12/25)、「YASUMASA MORIMURA: Theater of the Self」ザ・ウォーホール(ピッツバーグ)(10/6~1/12)、「森村泰昌 レンブラントの部屋、再び」原美術館(10/12~12/23)ヨコハマトリエンナーレ2014アーティスト・ディレクター。

創刊にあたってのメッセージ

「ヨコハマトリエンナーレ2014」も開催までいよいよあと一年を切りました。さまざまなシーンで、皆様のご協力が必要になってきます。どうかよろしくお願いたします。アーティスト・ディレクターの私としては、サポーターの皆様の興味やスケジュールなどに対応すべく、多様なメニューがあればいいと考えています。

「ヨコハマトリエンナーレ」は、ヨコトリ応援団、あるいは後方支援部隊としての活動もあります。あるいはもっと深く関わって、たとえば会場で開催されるパフォーマンスの出演者としての参加という、サポーターという枠組みを一段踏み出した方向も考えられます。表現の場の中心に身を置く。それなりの覚悟は必要かもしれませんが、芸術表現の魅力を知るためには、とてもチャレンジングな参



Morimura Yasumasa
森村泰昌

©Morimura Yasumasa + ROJIAN

加ではないでしょうか。もちろんあれもこれもと広げすぎると、総花的になっていけません。今しばらく議論を重ね、出来るだけ早い機会に、「来れ、サポーターの皆さん!」と、改めて具体的にお声がけいたします。皆様それぞれの興味やスケジュールにあわせ、ご参加のほどよろしくお願ひ申しあげます。みんなのヨコトリとなるよう頑張ります。

横浜トリエンナーレサポーター's フリーペーパー「ヨコトリツ!」VOL.1 ●企画・編集:横浜トリエンナーレサポーター フリペチーム(入江暢子/上田良寛/江藤真央/大澤歩/齊藤照子/深野一穂/布田翔太郎/山田崇之) ●カバーアート:布田翔太郎 ●紙面デザイン:山田崇之 ●編集アドバイザー:藤原ちから ●発行日2013年10月5日 ●発行元・お問合せ:横浜トリエンナーレサポーター事務局(横浜市中区日ノ出町2-158 黄金町エリアマネジメントセンター内) | TEL:045-325-8654 | ●横浜トリエンナーレサポーター公式サイト <http://www.yokotorisup.com>

次号予告 特集: LOGBOOKってなんだ? (仮) 12月中旬発行予定

横浜トリエンナーレ サポーター 4チームの活動報告!

横浜トリエンナーレ サポーターは、課外活動として4つのチームに分かれて活動中です。興味を持ったら誰でも参加できますよ! サポーター公式サイト内ブログでも随時活動報告中!

イベント・企画チーム

ヨコトリを盛り上げるため、日々奮闘中!

猫の手も借りたいぜ(汗) 絶賛メンバー募集中! フリペ創刊待ちました! 記念すべきヨコトリ開催300日前に合わせるにはニクイw 新たなツアーやイベントなど皆さんがヨコトリを盛り上げるお手伝いが出来るよう日々奮闘中! サポーター事務局も改装しました!遊びに来てね! 今後の活動も要CHECK!(久地岡)

LOGBOOKチーム

黄金町バザールでのLOGBOOK、参加者募集中!

私たちはヨコハマトリエンナーレ2014へのLOGBOOK運用・実施を目標に活動しています。メンバーの年齢層は幅広く、10人程度が所属しています。11月には黄金町バザール期間内でのイベントも実施予定! 黄金町のまちを一緒に歩きましょう。(横井)

子ども向けアートチーム

子ども向け、親子向けのWS、考え中!

子どもたちがアートを身近に感じられるように、特に子ども向けという視点でサポーター活動をしているグループです。通称こども班。LOGBOOKを子どもや親子連れも参加しやすく、楽しいものにするための広報やお手伝いのほか、メンバーで考案するワークショッププログラムの実施も予定しています。(廣澤)

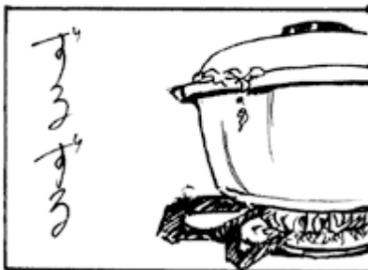
フリペチーム

創刊号、ちょっとマジメすぎました?

ついに出ちゃった、創刊号。嬉しいです。すごく。まだ緊張感いっぱい、紙面がなかなかマジメなんですけど、ほんととは、もう少しゆるくてもいいかなって思ってるんですね。そんなふう迷いつつも、和気あいあい作っています。フリペへのご意見&新メンバー募集中。お手紙、お待ちしております。(入江)

真白なボン

江藤真央



<http://maeto.tumblr.com>

サポーターの活動に興味を持ったら...

横浜トリエンナーレ サポーター 公式ウェブページ

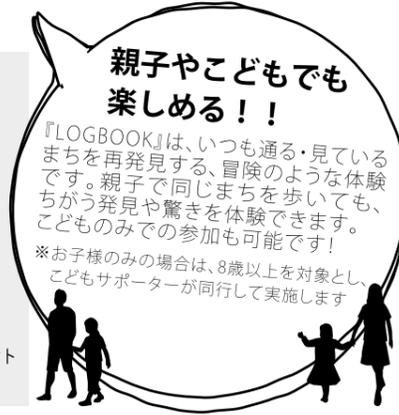
<http://www.yokotorisup.com>

~いつもと違う視点でまちを歩く 知らないまちに 知らない私に出会える~ まちを航海する「LOGBOOK 黄金町バザール」

『LOGBOOK』とは、いつもと違う視点でまちを歩き、その『logbook; 航海日誌』を交換することで、他者の記憶の追体験ができるというプロジェクトです。今回は他者が作った『logbook; 航海日誌』を片手に、黄金町バザール開催中のまちを歩きます。時間と空間が交差するまちへ、さあ出航です!

※企画・運営:横浜トリエンナーレサポーターLOGBOOKチーム
※LOGBOOKプロジェクト:市原幹也(演出家)と野村政之(ドラマトゥルク/演劇制作者)が共同開発した演劇プロジェクト

- ◆日程 2013年11月3日(日)
- ◆時間 14:00~17:00
- ◆会場 高架下スタジオ Site-C
横浜市中区黄金町1-4番地先
京浜急行線日ノ出町駅徒歩8分
- ◆参加費 無料(事前の申込は必要ございません)
- ◆お問い合わせ
→E-mail / info@yokotorisup.com
→FAX / 045-325-7222 (黄金町エリアマネジメントセンター事務局)



親子や子どもでも楽しめる!!

『LOGBOOK』は、いつも通る・見ているまちを再発見する、冒険のような体験です。親子で同じまちを歩いて、ちがう発見や驚きを体験できます。子どものみでの参加も可能です!

※お子様のみの場合は、8歳以上を対象とし、子どもサポーターが同行して実施します

TRIENNALE SCHOOL 2013 vol.6,7,8

トリエンナーレ学校2013
www.yokotorisup.com
参加はHPからお申込み下さい

トリエンナーレ学校は、横浜トリエンナーレと一緒に盛り上げるボランティア(=サポーター)活動の一環として2005年から始まりました。月に1回、様々なテーマを持った講座を設定し、楽しくアートに関する知識を身につけていく学校です。

秋期講座

つながりのデザイン
~広報でつなぐ横浜トリエンナーレ~

10/23(水) 11/27(水) 12/25(水)

時間:19:00~21:00(開場18:30)
場所:ヨコハマ創造都市センター3Fスペース
参加費:無料(12/25の懇親会のみ有料500円)

あいちトリエンナーレ(以下「あいちトリ」)は、二〇一〇年から始まり、今年で二回目の開催ですが、そこには来場者を楽しませる工夫や仕掛けが盛りだくさん! 今回のヨコトリサポーターによる遠足では、来年の横浜トリエンナーレをさらに楽しいものにするためのヒントをたくさん見つけることができました。

最初に訪れた愛知県美術館では、ボランティアガイドツアーに参加。わかりやすい言葉で簡潔に語られ、それでいて知りたいポイントをしっかりと押さえた解説に、一同じっと聞き入っていました。学芸員や音声ガイドによる館内ツアーとはひと味違う、ボランティアスタッフによるアットホームな安心感。観客と距離の近い立場だからこそ生まれる親近感なのかもしれません。

あいちトリは子ども向けのプログラムも充実しており、そのひとつが「キッズトリエンナーレ」。家や学校ではできない大規模な創作活動が楽しめる「いつでもプログラム」や、特殊なメガネを掛けて鑑賞するなど、展示作品にさまざまなアプローチで向き合っている新たな発見を楽しめる「トリエンナーレ・キット」など、子どもが遊び感覚でアートと仲良くなれる独自の企画が展開されていました。「アート」と聞くと、ちょっと敷居が高いものと考えがちですが、家族で楽しめるキッズトリエンナーレはそんな先入観を取り払ってくれそうです。

また、前回のあいちトリで子どもたちに人気だったのが、各会場間の移動手段として運行するベロタクシー(自転車タクシー)だそう。またベロタクシーに乗りたい!」

と云って来場する家族連れも少なくないのだとか。トリエンナーレは美術館である以上、作品が目が行きがちですが、子どもたちは意外なところにも楽しみを見出しているようです。こうしたアトラクショナルな要素、来年のヨコトリにも取り入れられるといいですね。

最も印象に残ったのは、直接トリエンナーレに関わっているわけではない、地元の方たちによる暖かい心遣いでした。まちなかでの野外展示を巡っている来場者のためにベンチを設置したり、ハンカチを濡らすための冷たい水を用意したり。どれもこれも、地元の方が自主的に行なっているのだそうです。まちぐるみで来場者を心から歓迎し、トリエンナーレをより楽しんでもらうこと。サポーターとして、そんな空気を横浜でも少しずつ作っていったらいいと思います。(フタ)



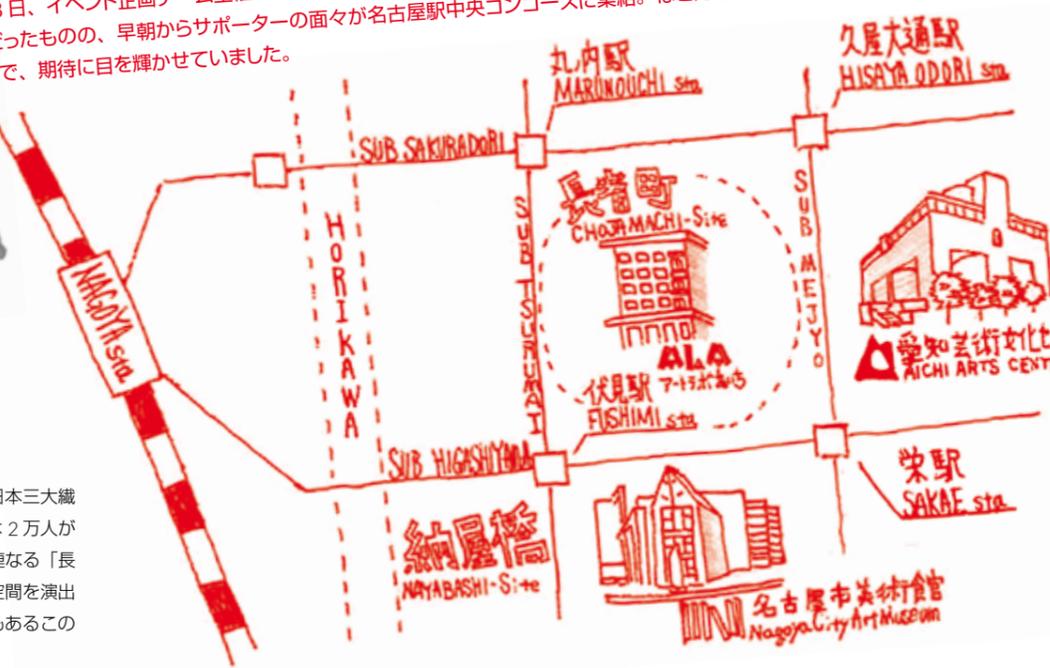
ヨコトリサポーターがやく!

あいちトリエンナーレに遠足だ! 編  去る9月8日、イベント企画チーム主催の遠足企画『あいちトリエンナーレ 2013 へ行こう!』が行われました。曇り空で天候が少し気がかりだったものの、早朝からサポーターの面々が名古屋駅中央コンコースに集結。ほとんどの方があいちトリエンナーレ初体験ということで、期待に目を輝かせていました。



長者町でも LOGBOOK 敢行!

江戸時代に城下の中心として栄え、戦後は日本三大織物問屋街の一つとして発展した長者町。今では2万人が働く名古屋有数のオフィス街ですが、道路に連なる「長者町織物街」のゲートが、まちに漂う独特の空間を演出しています。あいちトリエンナーレの会場でもあるこの



まちで、作品鑑賞も兼ねて LOGBOOK を体験しました。LOGBOOK には、いつもと違う視点でまちを歩き記録する楽しさと、他者の記憶を追体験する楽しさがあります。今回は後者の体験でした。しかし日曜日でお休みの店も多く、作成者の目印を見つけられずに苦戦を強いられたチームも多かったようです。それでも異様に多い駐車場や、呉服屋なのに「ロイヤル」など、

普段なら目に入らないような景色が見えてきました。まちのディープな部分を知り、まちと親密な関係になれたような気がします。

唯一の心残りは、作品鑑賞も兼ねて寄り道をしていたため、ゴールまで辿りつけなかったこと。観光客用の見所を押さえた「logbook; 航海日誌」があると、より良いかもしれません。(LOGBOOK チーム 船長 横井貴子)



64歳・男性・会社員・名古屋市在住 愛知万博をきっかけにボランティア活動を始め、あいちトリには2009年のアレイブメントから関わっています。現代美術ってよくわからないので、ボランティア活動に参加すればより深く理解できるかもと思い始めました。お客さんに「聞いてよかった」と言われるときが一番やりがいを感じます。

44歳・女性・会社員・豊田市在住 前は観客として行ったり楽しくて、最初から関わったりもっと楽しめるのではと思い今回のボランティアに参加しました。ガイドを聞きに来たお客さんから笑顔や良い反応を引き出せたときに、「やった!」と思います(笑)。まずはとにかく参加! 最初は躊躇するかもしれませんが、一歩踏み出しちゃったほうが面白い世界を覗けるはず。

57歳・男性・公務員・名古屋市在住 以前は現代美術作家としても活動していました。ボランティア活動を通して現代美術好きな仲間が出来ることが楽しいです。普通の生活の中みながかなか見つけられないですからね。新たな人脈が芽つる式に生まれてくるし、そこで生まれた人間関係を大切にしていきたいと心がけています。

わたしたち、遠足に参加しました!

江森あずささん・女性・20歳 この遠足が、ヨコトリサポーターに登録して初めて参加する活動であり、集まる前は緊張八割、わくわく二割でした。ですが、すぐに周りの人と打ち解けることが出来、楽しく一日を過ごすことが出来ました。ツアーの中では作品やアーティストの背景を聞けたり、トリエンナーレの裏側を聞けたりしましたが、なにより、同世代の人、もっと大人の人、トリエンナーレに関わりたいと思っている様々な人に会えてお話しできたことが嬉しかったです。

安藤洋徳さん・男性・29歳 まったくの偶然で名古屋へ引越したのが、8月。もう横浜トリエンナーレには関われないだろうと思っていたところに、遠足企画のメールが届き、参加させていただけました。あいちトリエンナーレが楽しくまわればだけでなく、最近は夜な夜なビクターセンターを訪ねては色々な方とお話しさせて頂いています。参加者、企画者のみなさん、ありがとうございました。(名古屋にお越しの際には、ぜひお声がけください。歓迎いたします!)

米澤加代子さん・女性 あい・ヨコトリに携わる方に実際にお会いして、サポーターのスタンスや芸術祭の意義のような部分に触れたいと思い、遠足に参加しました。大規模なイベントを1日ぐるっと回れたことは、スタッフの方に感謝です。ローカル感を味わいながら、グローバルな作品をたっぷり鑑賞、最終的には開催地域への理解も深まりました。行動を共にした方々も活動的な雰囲気今後イベントなどでお会いするのが楽しみです。ありがとうございました。

三島よしみさん・女性・51歳 横浜トリエンナーレ遠足企画は200%楽しみました。あいちトリ運営スタッフの雑話も聞いて現代アートが身近に感じられました。遠足参加者が交流できる工夫をヨコトリサポーターの皆さんが「ランチ」や「作品鑑賞ポイント」など新しいゲームを入れて随所に工夫して下さった事が感激でした。私は京都在住。HPで企画を知って飛び込み参加。正直不安でしたがホント参加してよかった! 友達にもお勧めしたいヨコトリサポーター企画です。

原田善夫さん・男性・66歳 遠足。わあーい、遠足だ! 年をとっても、どこかに行くのは楽しいものです。現代美術はいまだに理解できていませんが、なにが動いているものが好きなので、納屋橋会場8Fの泡が時間により変化するオブジェが印象に残っています。前にトリエンナーレ学校で習った筈なのですが、LOGBOOKのことをすっかり忘れていました。昼飯時に「LOGBOOKとは何か」と質問して呆れた事と思います。始めて参加して、頭が硬くなった私には難しいと感じました。bookに書かれていることと街中の風景とが頭の中一致しません。「コーヒーの美味しいところ」と書かれてあったので、飲みたかったのですけど。まあ「トマトのがき氷」を食べることができたのでよしとしましょうか。

義があるのでしょうか。アートには正解がないので、複数の人の視点で見ることには意味があります。参加によりそれが濃密になります。仕事で関わるのと違って、ボランティアは純粹に活動を楽しめます。我々もより関心を持ってもらえるよう、トークショウで「アートの裏側」の話をしていきます。



インタビュー中の武藤さん(右)

武藤さんが横浜でアーキテクトをするようになったらどんな感じになるでしょうか。

横浜は港が中心でそこから広がっています。そこを生かしたいですね。会場のつなげ方が大事です。あいちではベロタクシーが欲しい感じになっています。地下鉄では方向感覚がなくなるのに対して、名古屋は甚盤目状になっていて地上を移動している感じが分るし、街の雰囲気が変わるのが分かります。横浜でもアートの拠点の間に魅力的なところがありますので、そういうことであれば、より横浜らしさが出るのではないのでしょうか。横浜美術館やBankARTは孤立していて、会場から街にしみ出てくる感じがしないのですが、二〇〇五年の山下埠頭では途中にパナアがあつたりして、会場外も繋がっている感じが出ていました。

あいちでは、横浜以上に市民参加の機会が多いようです。市民にとって市民参加はどのような意義があるのでしょうか。

僕はこれまでの横浜も見てきました。横浜でいえば、トリエンナーレ本体よりも黄金町が名古屋の長者町と比較されがちなのですが、そこもかなり違います。横浜の黄金町は街を再生しなければならぬという自治体の思惑が出发点にあるのに対して、あいちでは長者町の街自体を作り変える意志はなく、助成も全くありません。また、黄金町には京急(高架下)という特徴的な空間があるので、ここ長者町にはそういうものがないという点も異なります。

アーキテクトという仕事は普通のアートイベントではないように思います。

キュレーターは見せる技術で作家さんをサポートするのに対して、アーキテクトは、壁を立てたり、照明を設置したり、長者町のような古いビルを使う時には法律上の手続きなどもサポートします。作家さんのアイデアを聞いて、こつやつたら出来るとか、それは法律上や技術的に難しい等のやり取りをしながらか作品を作っていきます。出来ることだいたい決まってくる美術館会場とは違い、街中の長者町だとそういうプロセスを進めることが多いです。

お話を聞きしていると、横浜とあいちの違いが都市型と言ったものかなり違うことが分ります。

アートと街を繋ぐ

あいちトリエンナーレアーキテクト武藤隆さん

アーキテクトとして主催者側の立場にたつ一方、街側の立場でアートと街をつなぐ活動をされている武藤隆さんにお話を伺いました。(インタビュー:フタ・上田)